

1000号に寄せて

前事務局長 西端 公敏

初めは手作り発行

私は74年頃、城東区で地域活動をしていました。そのころ城東区で開業されていた玉川和隆先生から「ウチの組織にこないか」と声をかけられました。それが大阪府歯科保険医協会の前身であった「歯科保険医の会」で、当時100人ほどの会員でした。71年4月に黒田革新府政が誕生した一週間後に「歯科保険医の会」が結成されたのです。保険医協同組合もこの年に結成されています。

当時の事務所は、天満橋北詰(北区金屋町)にあり、医科の保険医協会事務所に居候というところでした。入局した当時、玉川先生から「協会の機関紙だけは絶対に休まず、続けること」と厳命されました。機関紙といっても、当時はまだタイプ印刷(タイプロッド表裏2ページ)で、まさに手作りでした。月一回の発行でしたが、役員も少なく、一人事務局で発行を継続する



千人会員めざし奮闘

このころは本当に大変でした。新聞部長の古田光行先生と夜遅くまで、編集会議を行いました。また、初期のころは松井福太郎先生、小山榮三先生、永岡博先生、田中勇三先生ほか多くの方々に原稿を頂きました。篠部正夫先生は、大阪ウォッチングの連載、ひねりの利いたコラムニストとして長年に亘って貢献されています。

そのうち、社保、税という要求運動を基にした二大看板を柱に、機関紙としての体裁を整え始めたのです。吹田で入会をお願いしたところ、「会員が1000人を超えたら入会した」と云われました。当時は、会員が500人程度で悔しさを噛みしめ、「ようし、今に1000

記念号の発行にあたって

新聞部長 矢部 あづさ

「あの日あの頃」・大阪ウォッチング・いろいろはカルタなど人気の連載もありました。これまで大切に育てられてきた大阪歯科保険医新聞の伝統を受け継ぎ、さらに協会の運動と共に発展させていきたいと考えています。

吹田で入会をお願いしたところ、「会員が1000人を超えたら入会した」と云われました。当時は、会員が500人程度で悔しさを噛みしめ、「ようし、今に1000



大阪歯科保険医新聞が「大阪府歯科保険医の会(ニュース)」として1971年4月に発行されて以来、今号で1000号を迎えることができました。これまで協会機関紙に投稿を

いただいた皆様、ならびに編集協力いただいた部員の先生方や事務局に心よりお礼を申し上げます。歯科保険医新聞は、機関紙であり、会の方針や運動、活動をお知

らせるだけでなく、業界専門紙として歯科界の情報を迅速なお目につしへ会員の先生方に届けるよう努めています。編集にあたっては、なるべく多くの先生方に登場していただき、会員の顔の見える新聞づくり、臨床講座や税・雇用の特集など少しでも会員の役に立つ新聞づくりをモットーに進めてきました。

保険医新聞の37年間を振り返りますと、歯科保険医の生活と権利を守り、国民医療を守



500号(93年9月)＝写真が1面を飾り、「光輝ある伝統のあることを忘れてはならぬ」と添えられている



900号(06年1月)＝発足から25年余りを経て、会員数は3630人に到達した

革新自治体と反動攻勢

75年に第二期黒田選挙が行われました。この選挙では東京、神奈川、大阪で革新知事が誕生し、全国的に革新自治体が生まれ、人口の約半数が革新自治体に生活するといふ状況になりました。当時の機関紙には、黒田知

事と協会役員が知事公舎で懇談する模様が報道されています。これに危機感を深めた米政府・財界は、以後政治反動化を強め、81年の土光臨調に象徴される「臨調・行革」路線を強行し、国鉄の民営化によ

って最強といわれた国労を潰し、総評、社会党を解体し、革新自治体の破壊を進めたのです。労働運動や民主運動が低迷化するなか、歯科協会は地区活動と患者の要求に応える立場にたった歯科保険活動で組織の存在をアピールし、厳しい時代でも発展してきました。

戦前の無産者医療運動に参加した医師が、戦後数カ月にして「新しい日本の医療」について論議し、今日の保険医運動の基礎を築いてきました。これらに関しては「戦後開業医運動の歴史」(保険連発行・95年)に詳しく記録されています。是非、一読をお勧めします。

私は99年秋に脳梗塞を発病し、約半年休職、翌年1月に退職しました。退職に当たっては、何のご挨拶もなく突然姿を消したような感じをお与えしたことが、いまも心残りです。

療養を兼ねて沖繩に移住、脳梗塞は癒えたものの03年に下咽頭がんと食道がんを発病、放射線治療で健康を回復したものの、08年3月再び咽頭、食道、左鎖骨下がんを発病、手術を行いました。この原稿は08年8月3日に書いていますが、術後4カ月余の経過したものの喉・首、肩への締め付

退職そして現在

が、その帰結が第二次世界大戦であったことは歴史の事実です。

け、圧迫感が酷く、また外を歩くことが出来ません。喉摘によって声を失い、左腕は水平以上に上がりません。喉・首への後遺症が緩和するまでまだ半年以上かかるようです。食事からシャワー、寝起きまで、妻・千代の全面的な介護・介助で生活しています。本日に感謝の毎日です。もう一度、元気を回復するために頑張ります。

税対特報

税対特報 74年10月22日付＝不当な税務調査への対応は、協会活動の大きな柱であった

税対特報 74年10月22日付＝不当な税務調査への対応は、協会活動の大きな柱であった

戦後開業医運動の歴史 1945~1995 THE HISTORY OF THE POSTWAR PRACTITIONERS MOVEMENT. ROJUN

戦後開業医運動の歴史(労働旬報社)＝戦後50年を迎えた開業医の運動の歴史を詳細に綴っている

ご意見募集

本号の感想や、これまでの特集、今後、紙上で取り上げて欲しいことなど、何でも結構です。ご意見は電話かファックスで、新聞部宛に。

電話 06-6568-7731
ファックス 06-6568-0564